



# 学院史編纂室便り

NO. 40 (2014.12.10)  
関西学院 学院史編纂室

9月28日、関西学院は創立125周年を迎えました。時計台にオープンした大学博物館で、平常展「未来への125年—関西学院のあゆみ—」が11月22日まで開催されました。



10月4日、5日の両日、G号館で開催された日本カナダ学会第39回年次研究大会に参加されたアルマン・デメストラルさん(ベーツ院長ご令孫)とカナダ大使館広報部長ローリー・ピーターズさんが大学博物館を見学されました。お2人とも、1928年に撮影された上ヶ原キャンパス鉄入れ式の映像に釘づけでした。学会では、ベーツ院長の少年時代と関西学院における働きが紹介されました。

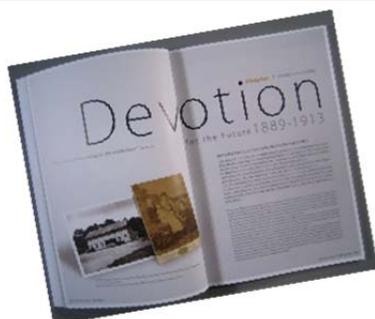
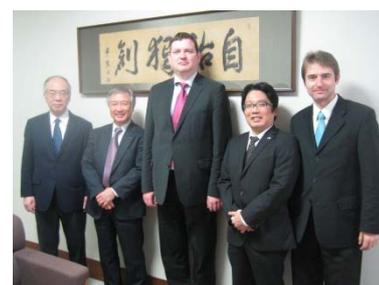


『関西学院事典』(増補改訂版)が刊行されました。



10月22日、山川記念館2階(西宮聖和キャンパス)に、関西学院初期4院長の展示コーナーが設けられました。翌々日のチャペルでニュートン、ベーツ両院長にまつわるエピソードが紹介されると、等身大パネルの効果もあって、聖和短期大学で両院長のファンが急増しました。

11月1日から7日まで、ミズーリ州からアン・ケネディさんご夫妻が来学されました。アンさんは、1953-54年に文学部で教えておられたベルシェ先生のお嬢様(当時3歳)で、ご主人はパルモア・ファミリーのご子孫です。21年間メソジスト系小学校の校長をされていたアンさんは、初等部の授業を見学され、子どもたちと英語で交流を楽しまれました。



記念誌『Gift for the Future: 未来に贈る125年』が大学博物館から刊行されました。



10月14日にペンケ駐日ラトビア大使、30日にラトビアからポイカーンスEU東方パートナーシップ担当特命大使をお迎えしました。両大使は、大正時代に関西学院で教えていたラトビア人青年イアン・オズリンを記念し、ラトビアから贈られた苗木をご覧になり、その成長を大変喜ばれました。

第42回 関西学院史研究会：関西学院創立125周年記念シンポジウム  
「W. R. ランバス宣教師の足跡を訪ねて—ブラジル・アメリカ・中国への旅から—」  
日時：12月16日(火) 13:30~15:00 申し込み不要・一般参加歓迎  
場所：関西学院会館 光の間(西宮上ヶ原キャンパス)  
報告者：ルース・グルーバル院長、多田義治、池田裕子(司会：神田健次)